

意識を!!



災害が起こったとき、あなたの家の中で倒壊したり、危険と考えられるもの、近所に洪水やがけ崩れ、倒壊の恐れ、避難の妨げになるなどの危険性はありませんか？

家の周りや近所を見回して危険な箇所がないか、日ごろからきちんとチェックしておくとともに、いざというときの避難場所や避難経路はどこかなど、町内会や奥尻町役場（防災担当）総務課情報サービス係）などに問い合わせ確認しておきましょう。

いざというときに危険を回避したり、避難するのは自分自身のとっさの判断や行動で、何もしなくても行政がしてくれる、誰かがしてくれるという甘い考えは禁物です。

「自分の生命・財産は自分



いざというときに備えて、家族や地域、職場などで話し合ったり防災対策を講じておくなど、日ごろからの心構えが大切です。

また、それぞれの地域には町で指定された避難場所があるので、実際に家から歩いてみて、場所と道筋などを確認しておくことも必要です。



高齢者や子ども、病人、体の不自由な方がいる場合は、いざとなったらどう対処するか、どのように避難するか、一家の大黒柱であるお父さんがいなくなった場合はどうか、連絡方法はどうか、十分に話し合いを持つことが大切です。

危険箇所をチェック

9月1日は「防災の日」：台風、地震、津波、大雨、強風、大雪などの自然界がもたらす災害は、いつ、どこで、どのくらいの規模で起こるか誰も予想が付きません。とくに私たちは、平成5年に「北海道南西沖地震」という大災害を体験し、尊い命と財産を一瞬で失いました。

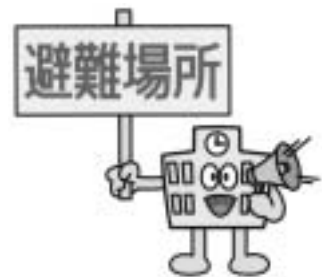
災害に対する知識や備えは、いくらあっても決して十分とはいえません。また、どんなに防災対策を万全にしようと、どんなに便利な社会になろうとも、大昔から繰り返される自然の猛威に逆らったり、防いだりすることはできません。

でも、個人レベルで被害を最小限に抑えたり、身近な範囲での防災は可能ですので、日ごろから各家庭で「防災」について十分に話し合い、万全の備えをするなど、常に「防災」についての意識を高めておくことが大切です。

話し合うことが大切

「守る」ということが防災の基本ですので、みなさん一人ひとりが自主的に防災の意識を持ち、意識を高めることが最も重要なことなのです。

なお、自宅周辺では、窓や屋根、外壁、側溝、門扉、柵、擁壁なども点検し、倒れていたり壊れているなどがあつた



場合は、早めに修理しておきましょう。

「防災」の



正確な情報の確認を

台風が近づいているときや

大雨、雷、強風、大雪、津波

などの恐れがあるときは、テレビやラジオ、防災行政無線放送などの気象情報をいち早くキャッチし、注意報や警報などに十分注意・警戒しましょう。

情報では、雨量や降水確率、

風の強度、津波、雷、土砂崩れ、高潮など、さまざまな予測や危険性が提供されたり、家屋などに危険が迫った場合には町から避難勧告などが指示されることがありますので、

情報を正確に確認することが大切です。

なお、危険性が身近に迫ったり、緊急を要する場合には各自の判断による自主避難や自主対応は大切なことですが、



誤った情報やうわさ話、防災知識がない勝手な判断、無謀な個人行動などは、かえってパニックや命取りになる場合

日ごろからの備えを



いつ、どこで、どのくらい規模で起こるか分からないさまざまな災害には、いつ起こっても対処できるように、前もって日ごろから備えをしておくことが重要です。

例えば、いざというときにすぐ持ち出せる「非常持ち出し袋」は、各家庭にすでに配布してありますので、中身を定期的にチェックして入れ替えたり、不足なものは補充しておきましょう。

もありますので、正確な情報をきちんと確認した上で、落ち着いて的確な対処や行動をするよう心がけましょう。

また「防災ヘルメット」もすぐに持ち出せる場所に保管したり、貴重品をいつでも持ち出せるようにしたり、停電時に備えて懐中電灯を用意したり、雨具や非常食、水、衣類、携帯ラジオ、救急用品など……備えは考えればいくらでもあるのです。

さらには、集合場所や避難経路、対処法、緊急連絡先等を確認しておくなど、家族で一つ一つ確認し合いながら、事前に準備しておく心構えがとても大切です。

